



子育て施設をまわって

「ヒロシマを知る平和のつどい」のチラシを持って学童保育所などを回っています。夏休みの大変な保育の様子を垣間見ました。

「他市であった死亡事故などのニュースを見て気を引き締めている」「暑すぎて外遊びもできず、ずっと部屋の中。子どもの育ちが心配」などの声も。

統廃合予定の学校でも、ほぼ高学年まで預かっていることもあって多くの子どもたちが学童保育を利用しています。

大きい学校の学童保育は総じて100人越え。単位を分けても、子どもにも指導員にも相当なストレスがかかる大集団です。

「学校施設内を基本に」では、大規模な学校の中に大規模な学童保育が必要になってしまいます。

施設整備がままならないとなれば、今まで失敗し続けてきた「使用している教室の流用」という質の低下に行き着くだけだと思います。

今進められている学校の再編や教育改革などはいかにも教師、教育委員会の目線です。崩壊の危機にある学童保育については真剣に考えていないと思うのです。

小・中学校の築年数

60年・長寿命化による延伸は可能 (耐用年数)

	小学校	中学校
60年～	土方(59) 第一(59)	原野谷(61)
50年～59年	千浜(58) 西山口(56) 曾我(52) 原谷(51) 大坂(50)	西(54) 東(53)
40年～49年	大淵(49) 横須賀(48) 城北(48) 上内田(46) 第二(45) 日坂(44) 西郷(43) 和田岡(43) 中(43) 桜木(42) 原田(42) 東山口(41) 倉真(41) 佐塚(41)	城東(48) 栄川(44) 桜ヶ丘(42) 大浜(42)
～39年	中央(5)	北(24) 大須賀(20)

この間子ども園化が進められた南部には、廃園になった保育園や幼稚園がそのまま残されています。耐用年数が切れているわけでもないのに使われることなく朽ちていく園舎。日陰をつくってくれた大木、ゆとりある砂場、まだ使える遊具。多くの公金をつぎ込み統廃合をしなくても、幼稚園をこども園化することなど保育需要の変化の対応はできたのではないのか。

学校の再編でも同じ事が行なわれようとしています。長寿命化の工事をすればまだまだ使えるところを切り捨て、150年とか刻んできた小学校の歴史を終わらせることが本当に子どものためなのか。大人の都合ではないのか。

あまりにも暑い

道路脇のプランターに植えた花を自分の家の庭に避難させました。ジョーロでは朝晩の水やりが追いつきません。エアコンなしで過ごされている方が体調を崩されるのは当たり前だと思います。このお便りを配りに出るのにも勇気がいります。どうか皆さんくれぐれもご自愛下さい。気候変動対策は急務です。



学校再編計画はほぼ決定してしまいました。が、私は長期間かけて小中一貫校への建て替えをするより、長寿命化を基本に、今ある施設を充分使い切りながら環境整備する方が財政的にもいいのではないかと今も思っています。

学校を大規模化して切磋琢磨の競争力を育てる教育より、諸外国のように小さい規模のクラス・学校で多様性を育てていねいな教育こそ求められているのではないのでしょうか。



食の安全と

オーガニック給食

全国オーガニック給食協議会の活動をされている山田正彦氏の講演会に参加しました。

お金がかかる有機農業を本気で広めるためには行政の支援が必要。入口として学校給食への利用を行ない有機農業の応援をする千葉県いすみ市などの事例を聞きました。

オーガニックビレッジ宣言をした掛川市。いすみ市のように交付金なども活用して、子育て支援&地元の農業支援にもなるオーガニック給食を実施してほしいです。



夏の花 ヤマユリ

